



赤い炎が立ち上がり、煙は日本の方角へ流れた。今回は48柱の英霊とともに日本に帰国する。



美しい内海に向かい追悼式。昇降日にも関わらず、島民が追悼式に参加し英霊に献花もしてくれた。



マジュロ平和公園「東太平洋戦没者の碑」前で結果報告と追悼式。マーシャルの政府関係者も複数名出席した。

マーシャル 戦跡紀行 「ウォツゼ島」

カメラ&ペン=鈴木千春  
本文 204 ページ参照

# 戦没者遺骨収容派遣



焼骨を終え、清潔な白袋に一人分ずつ遺骨を入れて、専用箱に封入。炎天下での過酷な作業。



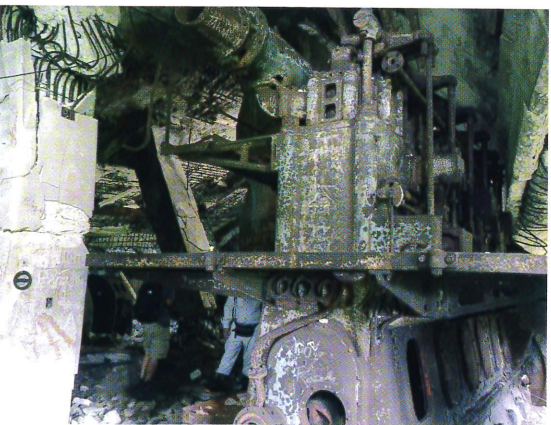
収容場所には必ずHPO（歴史保存局）の学者（アメリカ人女性）が同行し、遺骨をチェックする。





外海に向けて海軍の砲が設置してある。敵艦艇への猛攻撃で焼け焦げたのか、左の砲身が半分になっている。

〈右〉二階建ての八〇二空本部・電信所跡。空襲を受け、鴨大佐はじめ航空部隊、電信員など多くの戦死者がでた。彼らが埋葬された場所を今回搜索し、一部を収容した。〈右下〉同建物の通路。今では廃墟だが、75年前多くの将兵が任務遂行のため、キビキビと往来する姿を想像した。



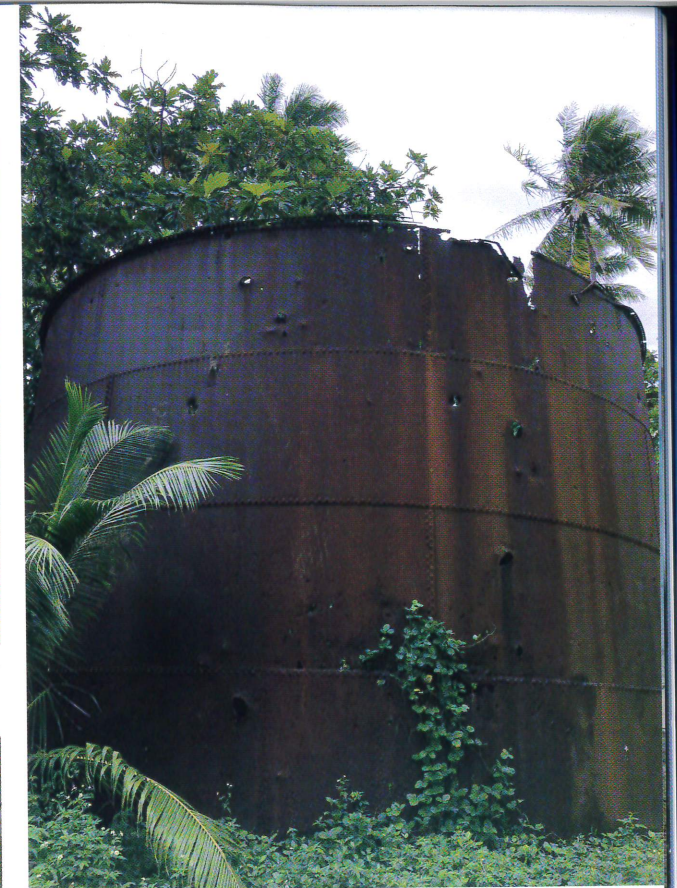
〈上2点〉発電所とその内部。爆撃を受け、多くの犠牲がでた。昭和48年の収容派遣では、ここで下敷きになった戦没者の遺骨を発掘し収容した、と記録がある。



将兵の命をつなぐ天水（雨水）を集めていた給水タンク（貯水塔）。製氷所の近くにあり、2基のうち1基が倒壊していた。



度重なる艦砲射撃にも耐えた分厚いコンクリートの弾薬庫。中に住む人に遺骨発見の情報がないか、聞き込みをする。



高さ6~7mと思われる巨大タンク。数多くあいた銃弾の穴から中をのぞくと、雑草が一面に生い茂っていた。



製氷所跡。警備隊棧橋のそばに残る製氷所には砲弾を受けたと思われる大きな穴が開いている。

マーシャル  
戦跡紀行

## 「ウオツゼ島」 戦没者遺骨 収容派遣

弾薬庫の中には一家族が広々と住んでいる。何本もの頑強な柱が、建物を支えている。



[MARU] 2019 8 月号

特集 ● 快速ダイブボマー

# あ、「彗星」艦爆隊

ワイドイラスト  
世界の「水陸両用装甲車」ラインナップ

カラー&モノクロ  
ニュージーランドの大戦機  
「ウォッセ島」遺骨収容派遣  
US-2救難飛行艇  
F-84Gサンダージェット



最新軍事セミナー

## 空自F-35A 墜落事故と 海底サルベージ